カトリック仙台教区報

No.241　2020年8月2日
発　行
カトリック仙台司教区
〒980-0014
仙台市青葉区本町 1-2-12
Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任　広報委員会
URL http://sendai.catholic.jp/

「光の子として歩もう、何が主に喜ばれるかを吟味しながら。」（エフェソ 5:8、10 参照）

平賀司教さま　ありがとう

仙台教区広報委員会は、引退が正式に受理され仙台教区名誉司教となって間もない平賀徹夫司教に、お話しを伺いました。

Q：司教様、長い事ご苦労様でした。本日は、司教様が司祭になる前のことや、ローマ留学中のことについては、さまざまな方々が書かれていますので、司教になられてから以降のことについて伺います。まず、あの東日本大震災が起こった時、司教様はどこにおられたのでしょうか？

司教：私は、その時、上り新幹線の中で奈良に向かう途中でした。大変なことが起きたということは分かりましたが、丁寧なアナウンスもなく、詳しいことが分からないまま、一晩を新幹線の中で過ごしました。眠れないまま、一番気になったことは、仙台教区の信者さんのこと、神父たちのこと、シスターたちのことでした。朝になって、新幹線から降ろされると東京行きと福島行きのバスが用意されていたので、福島行きのバスに乗りました。福島駅から野田町教会に歩いていくとトマス神父が出てこられました。疲れ果てていたので、応接間で少し休ませていただきました。それから、タクシーを拾おうと思ったのですが、１台も通りません。そこで、駅まで歩きやっと１台つかまえて、夕方、司教館まで帰りました。そして、夜遅く小松史朗神父から、ラシャペル神父の突然の死を知らされました。

数日すると、カリタスジャパンの菊地功司教や谷大二さいたま教区司教そしてカリタスジャパンの成井大介神父等が来られ、仙台教区サポートセンターが開設されました。そして、ひと月の間に活動はどんどん広がっていきましたが、机にじっと座っているだけでは、気が気でありませんでした。矢も楯もたまらず、舟山亨神父と２人で１泊２日で車で被災地を回ることにしました。

＜気仙沼教会へ＞ まず気仙沼教会に行くと、會津隆司神父が出迎えてくれました。教会の下の南町通りの被害のひどさに驚きました。瓦礫がいっぱいで車が１台やっと通れるだけでした。今回の震災は、青森から福島まで被害が及んでおり、すべて回るのは無理なのですが、まず八戸まで行きそこから南下しようと思い宿を探しましたが、営業しているホテルも旅館もなく結局、一関に泊まりました。

＜久慈教会へ＞ 翌日、久慈に行きました。久慈教会は大丈夫でした。津波が川を遡り、大きい木を押し上げていました。津波の水の力のすごさを感じた一瞬でした。そして、国道45号線を南下して行きました。途中の沿岸の小さな町、野田村、小本、岩泉町などの集落が津波にやられ、街並みがこわれていました。田老町は、町が全部なくなり、残されている家も壊れており、自衛隊が働いていました。国道がやっと通れるようになっていました。宮古教会に向かう途中に、船が打ち上げられていました。

釜石にて2011年6月

＜宮古教会へ＞宮古教会では、伊藤純子さんが留守番をしていました。被害状況についての話を聞きましたが、信者さんで被害に遭った方がいらっしゃいました。教会そのものは、被害に遭っていませんでした。津軽石湾の脇を通って国道を南下し、山田町に入りました。しかし、町の中は通れない状況でした。山側に自動車道があり、そこからまた南下していきました。私の見た感じでは、田老町よりも、もっとひどい被災を受けていると感じました。大槌町は、 山田町に負けず劣らずの被害で、全部家がなぎ倒されて、壊滅的な町になっていました。

＜釜石教会へ＞ 釜石教会では、信徒会長さんの小野寺哲さん、副会長の伊瀬聖子さんと話すことができました。私たちは持参したガスコンロなどを置いてくることができました。釜石も教会直前まで津波が来て、瓦礫や車が門のところまできていました。釜石市のさんたんたる状況の中を南下していきました。

思い出の写真から：岩手県大会で「絆のローソク」を受け取る

＜大船渡教会へ＞ 気仙沼教会と兼任の大船渡教会の主任司祭・会津隆司神父が、こちらでも待っていてくださいました。大船渡教会、海の星幼稚園も、水、電気、ガスもなく、幼稚園の先生方は、卒園前の準備を日没までにしようと、一生懸命働いておられました。その後、大船渡教会の信徒で被災された山浦玄嗣医師をお見舞いしました。医院では診察を開始され、地元の人々から信頼されている様子がうかがわれました。大船渡を出て、陸前高田に近づきました。夕方近くなっていましたが、今回の旅で、いちばんのショックを受けました。これまで、国道沿いに大きな町がありました。それらが、すべて砂漠になっていました。町がなくなって、砂漠のようになっていたというショックで言葉もなく、もくもくと車を運転し、一関を通過し、仙台に着いたのは午後９時を過ぎていました。こうして、忘れることのできない１泊２日の旅が終わりました。

全世界からの応援も大変なものでした。まず、韓国の教会から司教団あげて見舞いが届きました。感謝してもしきれません。そして、教皇庁からもありました。それにアメリカの民間団体からも、カナダのいろんな教区からもありました。アジア諸国からも、スリランカ、フィリピン、インドネシア、オーストラリア、メキシコ、南米諸国からもありました。全世界はひとつとなっている気がしました。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

４月18日、私は仙台教区の復興に向けて「新しい創造」基本計画を発表しました。この計画は、第１期から第５期まであり、現在は第５期の中途にあたります。

その後、東京大司教区によりカトリック東京ボランティアセンター（CTVC）が設置され、大阪大司教区により「仙台教区サポートセンター後

方支援室：ENGO（えんご）プロジェクト」が設置され、長崎大司教区により大槌ベースが設置されました。また、定例司教総会において、日本の教会は「オールジャパン体制で仙台教区を支援する」と決定してくださいました。涙が出るほどうれしくて、感謝しております。

Q：司教様が行ったもう一つの重要な仕事に、地区制導入がありますね。そのことについて、お話しいただけますか？

司教：2014 年の年頭書簡でこのことを、皆さまに発表いたしました。そして、実施は４月からでした。教区内にある 53 の小教区をグループ分けをして、８つの地区にしました。それぞれの地区に司祭が複数派遣され司祭はチームとして相談しながら地区内の小教区の司牧にあたるというものです。今まで、司祭は小教区に派遣されていましたが、地区に派遣するという考え方の転換でした。こうすることによって、自分の属している小教区のことだけでなく、「教区が私たちの教会」という意識にまで高めたいと思ったのです。宣教司牧で第一に大切にしたいことは、可能なかぎり多くの信徒が秘跡、特にミサに参加できるよ

思い出の写真から：一本杉教会マリア・ゴレッティ祭にて

うに配慮することだと思います。ですから、主日には、できるだけ、多くの小教区でミサがささげられるようにしていただきたいと思っています。

この計画を実施した直後は、１人の司祭が２、３か所の教会を回ればいいという考えでしたが、その後いろいろな声が私のところに届けられるようになりました。司祭と信徒の交わりが大切ですが、１つの教会でミサをささげ、次の教会に行かなければならないので、急いで帰らざるをえない。そのため、信徒との交わりは不可能です。信徒はゆったりした時間がないと、司祭と話しの糸口も見つけることができず、司祭と親しくなれないという傾向もあります。また、教会委員には、司祭が出席することが恒例になっていますから、なかなか、複数の教会をまわるということは難しい面もありました。司祭の数が少なく、毎週、主日にミサを、と考えて計画した地区制度が問題にぶつかっている状態です。この地区制を変えるとすれば、どのように変えていけばいいのか検討していくということも、次の司教に委ねなければなりません。

また、昨年の 11 月、教皇フランシスコを日本に迎え、被災者の皆さんと一緒の時間が持てたのは、とてもよい思い出です。私は、教皇様の広い心、牧者としての勇気とやさしさを感じました。

Q：今一番，仙台教区に願っていること、伝えたいことがございましたらお話しください。

司教：年を取った人が教会から姿を消すとき、その後を継いでいく人がいません。そのことが、非常に心残りです。昔は高齢者が陣取っていて、若い人がやりたくても手が出せない状態ということもありました。危なっかしいように思えても、高齢者がじっと見守っていって、忍耐をもって育てていく必要があります。高齢者の後に続く人の引き継ぎがうまくいくといいですね。伝えたいことはそのことです。

Q：次の司教に期待することが何かございましたらどうぞお話しください。

司教：幼児洗礼が、少なくなっています。幼児洗礼が増えることを期待しています。そのためには、世話をする人が必要です。若い人、その家族を育てることが必要です。そのために，次の司教様のお働きを期待しております。

最後に、仙台教区の信徒の皆さま、シスター方、神父様たち、お一人お一人にお目にかかって感謝の言葉を申し上げたいのですが、それもできません。この教区報の紙面をお借りして、皆さまに、「ありがとうございました」と心から申し上げます。

（聞き手：Sr.長谷川 昌子 聖パウロ女子修道会）

平賀司教神学校時代のことなど

初めに、平賀徹夫司教様は２００６年３月から２０２０年３月まで、１４年間の長きにわたって、仙台教区の司教ならびに教区長として、仙台教区民のために全身全霊を捧げていただいたことに対し、心からの敬意と感謝を申しあげます。ありがとうございました。

平賀司教様との出会いは、今からさかのぼること５３年前、平賀司教様が１９６７年３月岩手大学をご卒業され、同年４月東京都千代田区４番町の東京カトリック神学院哲学部に仙台教区の神学

生としてご入学された時からです。私は哲学部４年、平賀神学生は哲学部１年生として、初々しい神学校生活を始められました。数日後、集会で北は札幌教区から南は鹿児島教区まで、それぞれの教区の先輩が新入生を紹介します。平賀神学生は緊張した様子でしたが、理知的でおとなしい感じのニコニコした好青年でした。神学校生活の一日は朝の祈り、３０分間の黙想、ミサ、朝食、掃除、大学・・・夜の祈りの最後にサルベレジナを全員で歌って祈りが終わります。主日ミサはグレゴリオ聖歌の歌ミサで、選出された４部編成のコーラスがリードします。平賀神学生は１年次からコーラスに選ばれバスのパートを担当し音感は抜群でした。（不肖私は第１テノール）。平賀神学生は哲学科４年、神学科４年、司祭への道に至るための８年間の勉学、研修を終え、１９７４年盛岡白百合学園を会場として叙階式が小林有方司教様の司式で、厳粛かつ盛大に行われました。

私にとって平賀司教様の司祭としての宣教活動の１つとして印象に残っていることは、１９８４年１１月２１日マザーテレサが来仙されたことがあげられます。平賀司教様はその当時、仙台教区の事務局長をしていらっしゃいました。マザーテレサをお迎えするために、実行委員会が設立され、メンバーは佐藤千敬司教様をはじめ、司祭、ブラザー、シスター、信徒の合計十数名で、４月から毎月１回のペースで実行委員会が行われました。平賀司教様はどちらかといえば寡黙ではありましたが、時に的確な指示をしてくださり、１１月２１日のマザーテレサの来仙を迎えることになりました。マザーテレサは来仙当日仙台空港からお出迎えの車で元寺小路教会にお着きになられ、すぐにミサにご出席、終了後、白百合学園会議室で聖職者、修道者を交えての研修会、午後は仙台市体育館で一般市民も参加しての講演、終了後、実行委員会のメンバーと仙台市体育館の応接室で歓談、夕方仙台空港からお帰りになられました。

平賀司教様は優しいお人柄なので、信徒が相談やお頼みごとなどに来られても、惜しみなくご自分の時間を割いて対応していらっしゃいました。また、東仙台の司教館からカトリック司教区センターに出勤され、２階の司教執務室に向かうため１階の事務室の前を通られるとき、必ず手を挙げて挨拶をされ、私はいつもさわやかな気持ちになりました。

２０２０年3月１８日平賀徹夫司教様の教区長引退がフランシスコ教皇様によって正式に受理された２週間後、平賀司教様とお会いした時、教区長（引退後名誉司教）という重責から解かれたことからなのか、ホットした様子を見受け、１４年間の重みを痛感しました。

これからもご健康に留意され、ご指導ごべんたつ賜りますようお願いいたします。

本当にありがとうございました。

中村 信忠（元寺小路教会）

平賀司教様がどこにいらっしゃるか、わかりますか？

ローマ留学中の平賀司教は・・・

「日本にいる時は、近くにいながらお話をする機会がないままなのに、海外でお会いしてお近づきになる」という事が多々ありますが、まさに私にとって平賀司教様との出会いもその様なものでした。今から約41年も前の事、昭和54年私は修道会の第三修練に参加するために、本会の総本部ローマに滞在しておりました。

サンセバスチャン カタコンペにて

期間中度々フリーの日があり、そんな私たちのために日本人の一人の司祭を紹介していただきました。名古屋の神言修道会の故浜口吉隆師です。

彼は神学受講のためローマに滞在中でした。フリーの日に彼はローマの市内郊外の名所旧跡の案内をしてくださいました。そんなある日、私たちはテルミニ駅近くの聖心侍女修道会で日本語のミサにあずかり懇親会のため、市内のボルゲーゼ公園に集まった時のこと。一人一人の自己紹介があり、私は「仙台教区の春山です」と挨拶したところ、平賀師が早速「私も仙台教区です」と、お互いにビックリ！

彼は当時ローマの大学に留学中でした。「今度は私が案内する」ということになり、その後私たちの本部に電話をくださり「カタコンベ」に行くことになり、お弁当は平賀師が用意してくださるとのことで、恐縮しながらも、どんなお弁当か楽しみにしておりました。当日ご一緒にバスでサンセバスチャンのカタコンベへ。

平賀師が準備くださったお弁当、「ご飯は、ミサをたてながら炊いた」との事。お弁当の中にはきれいに握られたおにぎりが並んでいました。それから今では容易に手に入ると思いますが、当時としては珍しい「きゅうりのキューちゃん」が小さなお新香入れとともに、またその上に割箸やおしぼりまで準備されているではありませんか、今でもあのお弁当は、はっきり覚えております。平賀師の作ってくださったお弁当をおいしくいただき、やがてカタコンベへ入場。私たちシスターはフリー入場、ところが平賀師はローマンカラーをつけていなかったため、チケットを買わされ恐縮してしまいました。

平賀師はローマではとてもフランクで、道路で買った食べ物を道々食べたり、時には「ポイ」、私の「ダメ」に対して「働く人のために仕事をあげるから」とのお言葉。バチカン・ミュージアムでもしかり。「シャッターお断り」と書いてあるところで、シャッター・オン。本当に楽しいローマでのなつかしい一コマ。今でもなつかしく思い出されます。

トレビの泉

教区司教という責任を負っておられる期間中特に、東日本大震災等いろいろ大きな事があり、大変だったことと思います。第一線を退かれた今、これからはご自分の健康を大切にされて過ごされる様、心から祈り、私たちにできるお手伝い、協力をしたいと願っております。どんな時でも笑顔を絶やさず、誰に対しても優しく、穏やかに司教職を全うされた事に心から感謝いたしております。長い間、お疲れさまでした。

Sr.春山 智子（善き牧者愛徳の聖母修道会）

花巻教会から

花巻教会は、平賀司教の出身教会です。

最初の出会い

平賀司教さんとの最初の出会いは、花巻北高等学校のESS（英語クラブ）であった。平賀先輩は３年生で、私たちは１年生３人（小田代、小原、平野）であった。一緒に、活発に活動しました。

次に花巻教会についてですが、私たち３人が教会の門を叩きゲーヴィレル神父さんに英語を教えてくださいと頼んだのが１年生の夏でした。半年後くらいから、ミサに参加していましたが、その時は、平賀先輩とも一緒でした。なにせその頃は大学生、高校生男子、女子が大勢教会に来ていてにぎやかでした。

時は過ぎて平賀先輩が司祭に叙階されてから、花巻教会のカテキスタ加美山恵子さんと委員会メンバー6～8人で平賀神父さんがおられる教会に巡礼をしました。

夕食を共にし、お酒も入って和気あいあいと懇親を深めて楽しい時間を過ごすことができました。それは、大湊教会、気仙沼教会などです。

平賀司教さまが引退なさったことに対しては、長い間大変大きな役割を果たしてくださいまして本当に深く感謝いたしております。今後も体調にお気をつけくださいまして、私たちを導いてくださいますようお願いいたします。

平野 荘八（花巻教会）

思い出の写真から：松丘教会の方たちと

卓球（ピンポン）の思い出

年に１回か２回、偶然とはいえお会いする機会に恵まれ、身近に司教さまを感じております。

昔（私が30代前半の頃のことなので計算してみるとおおよそ50年前頃となりますが）、司祭になる志をお持ちになり花巻市内の今弘商店で、社会勉強のため１年間働いていた頃と記憶しています。司教さまは、私の勤め先の伊藤組で卓球の試合をしたことを覚えておりますか？ 私にとっては、忘れられない思い出であり懐かしい出来事でした。私は、あっさり勝つと思っておりましたが、結果は無惨にも０勝３敗でした。１セットくらい私に花を持たせる事もなくビシビシ攻められ、まさに勝負師そのものでした。柔和なやさしい姿の中に隠されたその厳しい気質をお持ちになって、今を作り上げたのだと思っています。

もう、お互い80代前後の老体となりましたがまたいつの日か、卓球ではなくピンポンをやってみたいですね。これから、１日１日を大切に生き、天命を全うし、栄光の夢を追い続けましょう。お身体に気をつけながら益々のご活躍を祈っております。　　福山 芳弘（花巻教会）

思い出の写真から：志家教会創立50周年

新幹線での出会い

2019年６月15日、私たち夫婦が群馬県に住んでいる次男の家に行くために、新花巻駅10時19分発の新幹線に乗りました。その同じ車両に仙台駅から、平賀司教さまがお乗りになり、私たちが司教さまを見つけて同じ列にならんで、私たちのことや子どもたちの事をお話しできました。楽しい新幹線の思い出でした。本当に、ありがとうございました。　　福山 伸子（花巻教会）

私が小学生だった頃・・・

私が小学生だった頃、花巻教会に行きますと、神学生だった司教さまは、教会の屋根を修理したり、ゲーヴィレル神父さまと聖書の話や運転免許証取得の際の失敗談など色々な話を楽しそうにされていた思い出があります。

今は司教さまになられて、雲の上のような存在になられましたが、当時はまだ神学生でしたので、身近な存在に感じられました。

教会の調理師だった佐藤さんは、司教さまが高

校３年の時、聖書について学びたいと教会に来られた際の事を私に話してくれました。
　その日、ゲーヴィレル神父さまは体調不良で寝ていたそうですが、起きてきてお話しされたそうです。その時、ゲーヴィレル神父さまは寝巻のままで・・・そんな二人の様子が今でも印象に残っているそうです。
　学生だった平賀さんが聖書を学ばれ、大学生になり神学生になって司祭へと進んでいく過程を花巻教会の関係者や信者の皆さんは家族のように見守っていました。
　1974 年に司祭叙階された時は、わがことのように喜びましたし、2006 年に司教さまになられた時は、この小さな教会から司教さまを送り出したという誇らしい気持ちでいっぱいでした。
　そして今年に定年による司教退任を伺い、もうそんなに時がたったのかと時間の流れの速さに驚いています。本当に長い間お疲れさまでした。
　花巻教会は、平賀仙台教区名誉司教が花巻出身である事を知らない信者さんも増えてきましたが、今もこれからも司教さまのためにお祈りいたします。
　ご健康に留意され、私たちのことをお導きくださいますようお願いいたします。

大内 典子（花巻教会）

平賀先輩との思い出

　平賀先輩との出会いは、58 年前の私の花巻北高校２年の時からです。私より先輩で、スポーツでは、花巻教会のホールで卓球の相手をしてくれました。平賀先輩の方が格上でしたが、私も教えられてだんだん上達して、ロビングを続けることができるようになったのを覚えています。
　司祭館では、スイス出身のゲーヴィレル神父さん（故人）、加美山恵子カテキスタ、平賀先輩そして私とでトランプのセブンブリッジを楽しんだこともありました。１回ごとに各人の点数を付けて一覧表にして、20 回ぐらいの総合点で点数の低い方が上位となりました。皆さん、とても頭脳明晰で、私の勝率は低かったと思います。
　私の高校の同級生は、平野荘八さんや小原富明さん（故人）ですが、大学生時代は、彼らは各々山形県、東京都へ転出して行きました。平賀先輩は、盛岡の岩手大学で、そして私は地元の私立大学にいたので、この間も一緒に教会で過ごしていました。この頃の私は、平賀先輩は教師になるのか、と思っていました。
　平賀先輩は、後に東京大司教になられた岡田武夫司教様と東京の神学校で親しくなり、岡田先輩は、夏休み中に花巻教会に来られて、二人一緒に泊まって神学の勉強をしていたのをお見かけしましたが、後に大司教様になられて、驚きでいっぱいです。
　平賀先輩は、司祭叙階後、小教区の司祭として各地を巡回しましたが、青森県の大湊教会の時には、花巻教会の谷村久興さん、福山芳弘さん、長南靖子さん、家内の律子、そして私等の有志数名で、激励の名目で車で１泊２日で教会を訪問しました。土曜日の晩には海辺の宿泊の旅館で一緒に乾杯し、夜遅くまで歓談しました。
　また、気仙沼教会の時には、同じ有志数名で１泊２日で教会を訪問しました。この時も土曜日の晩には神父さんなじみの居酒屋で一緒に乾杯しました。
　司教に就任する時は、仙台まで有志数名でお祝いに参加しました。おめでたいことなのですが、雲の上の人に感じて、今後は、気楽に声をかけては失礼と少し距離を覚えました。
　それでも司教様は、その後も盛岡に所用で出張された時には、何回も花巻教会に気さくに立ち寄ってくださいました。
　あれから何年、司教様も世にいう定年でお勤めを終えられたとの通知が教会に届きました。たくさんの試練を乗り越えて、その使命をまっとうされました。仙台教区の一員として心から感謝申しあげます。

小田代 将正（花巻教会）

花巻教会の喜び

　昭和 41 年、当時の新興製作所に入社するために、花巻にきて花巻教会に行った時、初めて平賀司教に会いましたが、まだ花巻北高の学生でした。
　当時の花巻教会は多数の高校生で、毎週の御ミサでは、聖堂はぎっしりいっぱいでした。ゲーヴィレル神父様の教えで、神学校に入って、信者たちは大変喜んだものです。司教引退後も、我々信者を導いてください。ありがとうございました。

谷村 久興（花巻教会）

平賀司教に感謝！！！

　謹んで、平賀司教に感謝して御礼申し上げます。
　通ったことのない信仰の道、見えない目をみひらき耳をそばだてながら教会は闇に輝く光へと聴き従ってきました。「主はみすてない」声を立てず、黙して自分の信念に固くたち、回心しても幼子のような信頼をもつ群れをゆく道の闇から光へと牧してくださいました。
　主は共にいてくださいました。「東日本大震災」「原発事故」「新型コロナウイルス」の発生等々、今までの価値観は逆転し大地は大ゆれに襲われました。私たちは神を求めおつくりになった地に、主の霊をおかれた方の導きにしたがって回心の道を歩みつつ、教会の「地区制」の新しい組織の中で、どんなみじめさにあっても一つの心、一つの新しい道を新しい勝利の歌を歌いつつ、主

に背負われていきましょう。
司教様の御家族、御子孫の上にあふれる祝福、豊かな恵みを主が報いてくださいますように、感謝のうちに　　三上 久美（花巻教会）

教区事務局長時代の司教さま

1987 年初誓願宣立後、私は初めての使徒職として仙台教区事務所に派遣されました。まだ改築前のことですので、古い石造りの教会堂と信徒館の奥にひっそりと建っている平屋の事務所でした。慣れない修道服とベールを身につけ、毎日八木山からバスで教区事務所まで通いました。仕事そのものは、難しいものではありませんでしたが、事務所のしんとした雰囲気にはなかなかなじめませんでした。その中でも、時折平賀神父様は声をかけてくださり、それに私は励まされました。

思い出の写真から：西仙台教会にて　1977 年頃

教区事務所には、平賀神父様が前に司牧しておられた教会の信徒の方がよく訪ねてこられました。どんなに忙しくても、心よく笑顔で受け入れ、入り口横の応接セットに座り、楽しそうにお話をなさっていました。どれほど信者さんたちから慕われておられたかということを感じさせられていました。

ある日、見知らぬ女性が誰をともなく訪ねてこられました。信者さんではないようで、ご病気のようでした。私は応対しましたが、要領を得ないし、お忙しい神父様方にはご迷惑ではないかと思い、お断りをしようと思っていました。でも平賀神父様が、お部屋から出てこられて、いやな顔ひとつしないで、迎え入れしばらくお話を聞いておられました。その時神父様の本物の“やさしさ”を私は知り、人を外側から判断していた自分に気づき恥ずかしく思ったことを今もよく覚えています。

次の年は他の任命をいただき、たった１年の教区事務所での勤務でしたが、本部修道院は司教館のすぐそばでしたので、お会いする時は必ず、車を止めて声をかけてくださっています。当時のやさしさは今も全く変わっておられません。毎年、お正月には修道院にお招きして、ミサを捧げていただき、１月２日のお誕生日を姉妹たちと一緒にお祝いしてきました。私たちのリクエストに応えてくださり、カンツォーネや時には民謡も歌ってくださり、私たちを楽しませてくださいました。長い間、教会のため、私たちのために心を尽くしてくださり、ありがとうございました。どうぞ、これからもお元気でお過ごしくださいますように。

コロナが収束しましたら、また修道院にお招きしたいと思っています。

Sr.石田 弘子（オタワ愛徳修道女会）

各地区からのことば

お疲れさま、そして、
ありがとうございました

平賀司教様が着座から 14 年と聞いて、正直、もうそんなにたったのかと驚き、つい先ほど、着座されたばかりの感じなのですが。司教様は「光の子として生きよう」と信徒に呼びかけ、ご自身が身をもって範を示されました。子どもの目線で、悲しむ人の目線で、喜ぶ人の目線で向き合い寄り添ってくださった。

司教様は地区制にし、野田町、松木町、会津は第７地区となり、エメ神父様が地区長になられ、エメ神父様のお人柄が信徒をひきつけ、野田町・松木町の両教会は平和に家族的な交わりの中で、教会が明るく活発に活動していると聞いています。2018 年４月にノーサル神父様が会津に派遣され、エメ神父様の話では、会津への司祭派遣に大変ご苦労なされたことを伺い、お会いしたらお礼を申し上げてほしいと言われ、お会いする機会がなく、まことに

思い出の写真から：大船渡にて

失礼ながらこの場を借りてお礼を申しあげます。司教様のご健康のさらなる回復と名誉司教としての活動をお祈りいたします。

笠原 孝広（会津若松教会）

心からの感謝を

・ミサにあずかる時、響き渡る温かな司教様のお声で、いつも聖霊と愛に包まれたことに―感謝
・弱くて小さな貧しい教会にお忍びでいらして、問題を聞いてくださったこと、そしてひとりひとりの名前まで覚えていただいた時、うれしさと喜びで古い自分から抜け出せたことに―感謝
・震災の時、悲しみと苦しみの中にいた時、平賀司教様が両手で大切に十字架（長崎原爆での）をお持ちくださったのです。あの時高野会長とふたりであふれる恵みに明るい気持ちになったこと、そして壊れた教会もいち早く修繕して下さったことに―感謝
・震災後、原町教会共同体の心にともしびを与えてくださった多くの司牧者の方々を派遣してくださったことに―感謝。

この９年間、私たちも努力を積み重ねて歩むことができました。心からいつくしみとお恵みに感謝です。

小林 和江（原町教会）

そうでしょう！そうでしょう！間違いなしの司教さまだ！

平賀司教様と初めてお会いしたのはもう何年も前のことでした。私が商工会議所青年部の集まりで塩釜へ行った時、一泊した次の日が日曜日だったので、塩釜の教会に行きミサにあずかろうと教会に電話したら、優しい声の神父様が出て「こう、こう、行くとＰＬ教団の教会があり、その向かいにカトリック塩釜教会があるのです。」とのこと。私はＰＬ教団を目指し訪ねると迷うことなくカトリック教会にたどり着いたのでした。ミサの後「青森からのお客さんです」と紹介くださったのが平賀神父様だったのでした。

その後、教区の宣教司牧評議会のお仕事をされていて、私も一委員として参加しておりましたが、その都度「何と穏やかで温かい神父様なことか！」と感じておりましたら、司教様になられ、私は内心「そうでしょう！ そうでしょう！ 間違いなしの司教様だ！」と喜んだものでした。

對馬 忠雄（本町教会）

光燦々（さんさん）司教さま

東北の山々、寒さ厳しい冬が過ぎ裾野は青葉いっぱい、小枝のあいだから光と若葉のかおり良い季節です。復活祭を迎え、今は復活節第六主日。

平賀司教、心よりお疲れさまと、言わせていただきます。太陽の光のごとく公平にだれとでも接して

思い出の写真から：ペトロ岐部と 187 殉教者列福式

いただきました思いがあります。

私、東北に移り住み１０年になります。その間、仙台市内、一関、水沢、大籠各教会でごミサに授かりました。

また、たくさんの信者さんたちとの秋保温泉研修会にも参加させていただきました。この時、はじめて司教さまとお話しすることができました。良い思い出です。今後、健康にお気をつけになられ、時間の許す限り、第１地区～第８地区の教会でのごミサをささげてくだされば、幸せに思います。

末廣 順士（気仙沼教会）

リビングには司教さまの写真が・・・

２００８年３月、私は子ども２人と共に、平賀司教様から元寺小路教会にて洗礼を受けました。子どもたちは２人ともドミニコ小学校に通っていたので、親子３人で洗礼を受けられてとても幸せでした。早いもので、当時小学６年生と小学４年生だった子どもたちは、今では２人とも社会人となりました。

思い出の写真から：子どもたちと

振り返りますと、東日本大震災の発生時は、子どもたちは高校生と中学生の多感な時期でしたが、神様のご加護により乗り越えることができたと思います。

平賀司教様には西仙台教会でミサの時、いつもやさしい笑顔で温かい言葉をかけていただきました。

本当にありがとうございました。これからもお身体を大切になさってください。

わが家のリビングには、平賀司教様を囲んで妻と妻の両親、洗礼を受けた３人で撮っていただいた写真が飾ってあります。

渡邊 秀己（西仙台教会）

思い出の写真から：あけの星の方たちと

社長！お世話になりました

甚だ恐れ多く、失礼にも程があるとは承知の上ですが、平賀司教様と不肖私はフルネーム中の二文字が共通しているため、これまで度々「うれしい誤解」を招いてきました。

初めてお会いしたのは 35 年前、平賀神父様が教区事務所と塩釜教会主任を兼ねておられた頃の、元寺小路・塩釜教会日曜学校合同の夏季合宿２日目でした。場所はもう津波で流された、相馬海浜自然の家。サングラス姿で浜辺に現れた神父様に、新米リーダーだった私は思わず子どもたちを守らなきゃと身構えたものでした。その後、1986 年の仙台教区 50 周年教区大会の事務局長として、さらに正平協担当司祭として 1987 年の全国会議仙台大会の開催など、神父様の下で活動する中で多くのことを教わりました。今は天国にいるWさんと「社長！（と平賀神父様を呼んでいた）お願いしますよ」と杯を重ねた思い出。無実の死刑囚・カトリック信徒の歌人佐藤誠さんの死に際し、一緒に仙台拘置所に塗油の秘跡を授けに行ったり、これまたもう天国の村首ステファノ神父様（よく私を「平賀君」と呼ばれた）の指紋押捺拒否闘争を支援するために仙台市役所や大河原町役場に交渉に行った際には、「神父は強し」を痛感させられました。

私が現在の職場・福島のカトリック学校に勤める時には、最初に当時白石教会におられた平賀神父様に声がかかり、神父様が私を推薦してくださいました。その経緯に加え氏名が似ていたことから、学校では「今度神父様が教えに来るらしい」とのうわさが立ち、やって来た私が神父とは程遠かったため、「どうやら神学生らしい」としばらく思われていたことは、30 年近くたった今でも本校の笑い話です。司教に叙階された時のお言葉「運転が好きなので、仙台教区じゅうを回りたい」の通り、本校の文化祭にも毎年足を運んでくださいました。

2006 年の司教叙階式、仙台白百合学園ホールでの平賀司教誕生の瞬間、万雷の拍手を受けて何十秒間も深々と頭を下げられた謙虚なお姿が、司牧者かくあるべしと、今でも目に焼き付いています。社長、長い間お世話様でした。まずはごゆっくりお疲れをお取りください。

荒賀 久仁夫（元寺小路教会）

思い出の写真から：青年たちと

正平協担当司祭のころ

「ともよろ」（「ともに喜びもって」の愛称）を合言葉にそれぞれの小教区にて分かち合いが行われ、教会共同体が芽を出した時期でした。当時、東チモール問題で奔走なされていた名古屋教区相馬信夫司教の「現場に行って震えて来い」の掛け声に、身の丈も考えず、正義と平和仙台協議会に入会しました。ところが、男性陣の学識高いメンバーの中に二人のおばちゃんがオロオロ。初めての女性会員でした。当時の担当司祭、平賀神父の穏やかさで、見守ってくださり、34 年の間、今に至るまでお邪魔しています。論争がバチバチ飛び交い、声が荒がるとすかさず平賀神父は「聖書の朗読」を指示されます。「いのち・差別からくる、指紋押捺・湾岸戦争・死刑廃止・六ヶ所村・原発・沖縄問題等々」の問題を通して多くの苦しみを味わいました。現場からの声が胸を突き刺します。「現場に行って次は何をしたらいいのか、相馬司教に聞いてみたら」の平賀神父の声掛けがありました。相馬司教曰く「苦しんで来い」でした、と伝えた時の平賀司教の微笑みが、脳裏に焼き付きました。

思い出の写真から：北仙台教会　堅信式

カトリック新聞平賀編集長として仙台を離れた時、カトリック正義と平和仙台協議会は「カトリック新聞を読む会」を発足。教区民が多く新聞に親しむチャンスと、平賀編集長にエールを送ることでした。元寺小路教会の掲示板にカトリック新聞がお目見えしたのもこの時でした。現在も７人の高齢メンバーで月に１度の「読む会」が続けられております。カトリック中央協議会直轄の新聞は、み言葉を味わう糧となり、共同体の道しるべとして、生き生きと祈りの内に分かち合いを行っています。

溝部脩司教の急な退任を受け、仙台教区に平賀司教が誕生しました。全国の新任司教方が、正義と平和担当司祭であった時期でしたので、ひそかな期待が真になり、喜びに心躍りました。

３・１１大震災後の９年間、大震災という大きな荷物を全身で受け止められた平賀司教。全世界の信徒の愛の証を、「出向いていく教会」の原動力として、仙台教区の歩みが始まりました。「新しい創造」へと向かい、出会った人々と共に、神様の深い思いを味わう時に出会わせていただきました。ご苦労様と有難うと感謝の気持ちでいっぱいです。

新型コロナ異変で、試練の時を過ごしている仔羊たちのためにどうぞたくさんのお祈りをお願いします。Ave Maria!

芳賀 ヒロ子（北仙台教会）

和野さん、買いなさい！！

司教様とは、カトリック壮年の会のメンバーとの交流会、また個人的にも何度か楽しいお酒をご一緒させていただきました。お酒が入ってもなかなか饒舌にならず、酒席を囲んだ人たちの質問に真剣に答えられる姿が、私にはとても印象的だったのです。

でもね私の手に係れば、一回の酒席の中で最低三

思い出の写真から：北仙台教会にて

回はお腹の底から笑わせることができる自信があったのですが。しかしながら私が司教様を独占することもできず、別の方にその場を譲っていたことをご存じだったでしょうか。

ある時「和野さん、楽しい話をすることも素敵なことですが、すこしカトリックの勉強をしてみると良いと思いますよ。」と言われたこと覚えていらっしゃいますか。

私が「どのように学べば良いのですか？」と尋ねると、「パウロ書院に行くと、『カトリック教会の教え』という本があるので、まずそれを読みなさい」と言われました。

私は、早速パウロ書院に行きその本を探したのです。本棚の中にその本を見つけ手に取った時、本の厚さと、重さと、活字の小ささに、めまいを起こしそうになり、そっと元の本棚に戻したのです。すると上の方から司教様の声が「和野さん、買いなさい！」と聞こえてきたのでした。仕方なくまたその本を手に取り迷っていると、後方からシスターが近づいてきて、そのままレジに促されたのでした。

仕方がないのでとりあえず家に持ち帰り読み始めたのですが、やはり本の厚みと、重さと、活字の小ささに、私はめまいと吐き気を覚え、これはもう神の啓示と思い途中で読むのを止めてしまったのです。でも司教様、本を買うという約束は果たした私をどうかお許しください。

そういえば、昨年の東仙台教会の巡礼での出来事覚えていらっしゃいますか？ 私たちは岩手県の水沢教会と北上教会を訪問し帰途に着き、バスは教会まであと１５分程度のところまで来た時、鶴ケ谷に住んでいる信徒の方２人が、ここで降りたいとのことで停車できるところを探していました、すると市バスの停留所スペースがあいていたのです。停留所に近づくと、そこに一人の男性がすっと立っておられ、よく見るとそれは司教様でした。「どこに行かれるのですか？」と私が訪ねると「司教館に戻るところです。」とのこと、「私たちも東仙台教会に戻るところです。ご一緒に行きましょう」とバスに同乗していただき教会に着いたのです。信徒の方々は司教様と一緒に巡礼してきたような気持ちになり、とても良い思い出となりました。いつも、気さくに接していた司教様に本当に感謝いたします、ありがとうございました。

これからは、お体に気を付けてゆっくりとお過ごしください。また、お会いできますこと、また酒席を共にできますこと楽しみにしております。

追伸

平賀司教様へ、鶴ケ谷から東仙台教会までのバス代、150 円は後から請求がいくかもしれません。（笑い）・・・？

和野 邦彦（東仙台教会）

なんとも言えない親しみを・・・

私が平賀司教と身近に話すようになったのは、平賀神父（当時）が仙台中央地区に派遣されてからですから、2002 年頃からということになります。かれこれ 20 年近くが過ぎ去ろうとしています。

正直に申し上げて、お会いした当初は教会共同体のあり方についてかなりの点で、私とは距離があるのを感じました。会議の席では、大抵、私と平賀神父の真っ向勝負の大論争になる、といったパターンでした。しかし、ある日のこと、当時の私は仕事のストレスなどで体調をひどく崩しており、東北大学

病院に通院していたのですが、その時、偶然、平賀神父にお会いしたのです。その日の病院はひどく混んでいて、支払いのために事務から呼ばれるのを待っていた時でした。突然横から「見いちゃった、見いちゃった、ネエ、一体どこが悪いの？」と人懐っこく声をかけてきたのが、平賀神父でした。私は、日ごろから厳しく論争をしている相手に弱みを握られてしまったようで、ばつの悪さを感じたのですが、その時の平賀神父のいたずらっ子のような目つきになんとも言えず気が抜けてしまったのでした。

しかし、「平賀神父も、どこか体調が悪くて大学病院にまできていた訳で、そこで論敵であるが旧知の私を見つけて、懐かしくて声をかけてきたのかも…、そう考えると案外率直で素朴な人なのかも？」と、思ったのでした。それ以来、平賀さん（あえてこのように呼ばせていただきます）に対して、なんとも言えない親しみを感じるようになったのでした。つまり、人間にはさまざまな側面があるという事を学ばせてもらったのでした。

上野 隆（西仙台教会）

司教叙階式アルバム

平賀司教の歩み

1945年1月2日
　8人兄弟の末っ子として岩手県稗貫郡湯口村（現在の花巻市湯口）に生まれる
1963年2月24日
　花巻教会で受洗
1967年3月
　岩手大学教育学部卒業
1967年4月
　東京カトリック神学院哲学部・上智大学文学部哲学科入学
1974年9月16日
　盛岡白百合学園にて司祭叙階
1975年3月
　東京カトリック神学院・上智大学神学部神学科卒業
1975年4月～1977年3月
　一関教会助任
　その間1977年1月～3月　西仙台教会で司牧
1977年7月～
　ローマ留学（ウルバノ大学法学科）
1980年6月
　ウルバノ大学法学科修士課程修了
1981年1月～1991年3月
　仙台教区事務局長　この間、一関教会、千厩教会、西仙台教会の協力司祭を兼務する。その後、1985年4月～1987年3月、塩釜教会主任代行と塩釜カトリック幼稚園園長を兼務する。
1989年11月～1994年3月
　宮城県南地区で共同宣教司牧がはじまり白石教会に着任。
1994年4月～1996年3月
　カトリック新聞編集長
1996年4月～1997年3月
　サバティカル
1997年4月～1998年3月
　盛岡四ツ家教会協力司祭
1998年4月～2000年3月
　大湊教会主任司祭、大湊カトリック幼稚園園長
2000年4月～2002年3月
　気仙沼教会主任司祭、気仙沼カトリック幼稚園園長
2002年4月～2003年3月
　仙台中央地区担当司祭
2003年4月～2004年5月
　仙台教区司教総代理、古川教会主任代行兼務
2004年5月14日
　教区管理者に任命される
2005年12月10日
　仙台教区司教として選任される
2006年3月4日
　仙台白百合学園レジナ・パーチスホールにて仙台教区司教叙階
2011年3月17日
　仙台教区サポートセンター活動開始、センター長に平賀徹夫司教就任
2011年4月18日
　平賀徹夫司教、仙台教区の復興に向けて「新しい創造」基本計画を発表
2011年6月13日～17日
　定例司教総会において、日本の教会は「オールジャパン体制で仙台教区を支援する」との決定がなされる
2014年1月1日
　平賀徹夫司教、年頭書簡において仙台教区に「地区制度」を導入することを発表
2020年3月18日
　仙台教区司教退任願いが受理される

訃　報

ツゲル・アントニオ神父（ベトレヘム外国宣教会）が、2020年4月23日午後9時40分、特別養護老人ホーム暁星園にて、老衰のため帰天なさいました。88歳でした。ツゲル神父は、スイスで司祭叙階された翌年には日本に派遣され、1977年から40年余りベトレヘム外国宣教会第5代管区長を務めるなど、60年もの長い間お働きになりました。神父様の永遠の安息のためにお祈りくださいますようお願い申し上げます。

Sr.マリア・テレジア 竹内 智恵（コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会 花園町修道院）が、2020年5月25日午前8時18分、安らかに帰天されました。96歳でした。シスターの永遠の安息をお祈りくださいますようお願い申し上げます。

編集後記

まだまだ、コロナウイルスの影響で、困難な状況がつづいていますが、なんとか完成にこぎつけました。仙台教区広報委員会では、原稿の投稿を募集しております。投稿は随時受け付けていますので、下記のメール宛てにお送りください。また、メールをお使いでない場合は教区事務所宛てに、手紙でお送りいただいても結構です。　（上野　隆）

sendaikyoukuho@gmail.com　　**次号発行予定日　12月6日（日）　原稿締め切り　9月末日**